

子ども議会小学生の部

たいよう
黒川 太陽 議長 (志佐小学校 6年)

議長という仕事の 責任と緊張感



志佐小学校からは、児童会運営委員の3人が子ども議員に選出されました。

議長をやってみないかと聞かれ、ぜひやってみたいと手を挙げました。

子ども議会が始まると、最初はとても緊張しました。議長として議事を進行するのはとても難しかったけど、後半はうまくできました。

今回、子ども議会で議長をやってみて、とてもいい経験になりました。



子ども議会中学生の部

さとし
小森 啓史 議長 (志佐中学校 3年)

松浦の未来を考える 有意義な時間に



子ども議会は、私たちの住んでいる松浦市の現状を考え、そして未来を考える貴重な有意義な時間でした。

私にとって、子ども議会の議長という仕事は、とても勉強になりました。いい経験をさせていただき、ありがたいと思っています。

各学校からたくさんのお意見や要望が出されました。これからの松浦市の発展に向けて参考にしていただきたいと思います。今回の経験をこれから松浦のことに活かして、今後も松浦のことを考えていきたいと思っています。





子どもたちの質問から見えること

今回の子ども議会では、「住みたい・住み続けたいまち 松浦」をテーマに、子ども議員たちから質問が出されました。

多くの傍聴者の前でも、子ども議員たちは堂々と質問や提案をしていました。

子どもたちは、登壇して質問をすることを通し、人に伝えることの難しさ、言葉の大切さ、議会での発言の重み、責任などについても学びました。

子どもならではの視点から学校生活での身近な問題、自分たちが住むまちの抱える問題や改善に向けた要望など、それぞれの学校から一人一人が気付いた問題や導き出した意見を集約して質問がなされました。どうすれば松浦が活気づき、住みたいまち、住み続けたいまちになるかを一生懸命考えて質問しました。

将来、松浦を担っていく子どもたちにとって、学校のことだけでなく、地域社

会のこと、自分の住むまちについて考えることは、地元への誇りや郷土愛を育むことにつながります。

今回、子どもたちはテーマである「住みたい・住み続けたいまち 松浦」についてじっくりと真剣に考えました。議会で出された質問や提案からは、子どもたちにとっての「住みたい・住み続けたいまち」が見えてきます。大人には気付くことのできない発想で切り出されるまちづくりに対する意見には、市長や教育長をはじめとする理事者側にとってもハッとするような、素晴らしいものがありました。

子どもたちが大人になつたとき、松浦がどういうまちであってほしいのか、そのためには、どうすればよいのか。すぐには解決できない問題も多くあります。

今回の子ども議会を通じて新たな課題とともに、将来の松浦を支えていく頼もしい若い力を見ることができました。

